

一般質問



服部久子

2. 気候変動への具体的取り組みを

【質問】世界的に気候変動で、温室効果ガス削減など地球温暖化に向けた動きが加速している。町の取り組みを聞く。
《住民課長》再生可能エネルギー利用の取り組みは、住宅用太陽光発電システム設置補助を続行し、小中学校など5つの施設で事業者に屋根を貸し、太陽光発電事業を行う（写真1）。令和2年の秋には一般家庭約62世帯分程度（年間30万KW）の発電を予定している。

【質問】全国で小水力発電や木質バイオマスの活用が行われ、地域活性化につないでいる。内川や岡せぎなどを利用して、川沿いの街路灯電源など小水力発電が利用できないか。
《産業振興課長》農業用水路の水利権は灌漑用のため、取水量は期間を決めて定められている。過去の調査で、維持管理などの経済性評価が低いので小水力発電は考えていない。
【質問】災害時、避難所に指定されている建物の電源確保に再生可能エネルギーは必要である。また、浸水災害時、最近のデータで町の平地部分は水深0.5m～3.0m（建物1階）の浸水となる予想が出た。災害時の避難所への電源確保についての考えは。

《総務課長》太陽光発電の屋根貸しする5つの避難施設（小中学校、池田保育園、やすらぎの郷）は電源を確保できる。他の指定避難所は当面、小型発電機の持ち込み対応となる。また、地上にある役場庁舎の非常用自家発電機の2階以上への設置は今後検討したい（写真2）。

3. 国民健康保険の負担の軽減を

【質問】国民健康保険では、年金受給者や非正規雇用者など比較的收入が低い方が加入しているにもかかわらず保険料負担は、協会の健保1.3倍、組合健保の1.7倍と高い。そのため滞納者が多くなり町は短期保険証を出して対応している。横浜市は昨年、短期保険証を交付しても滞納が減少しないという理由で4万件以上あった短期保険証を廃止し、通常の保険証を交付した。町もそのような対応ができないか。
《総務課長》6か月以上滞納がある被保険者に短期保険証を交付している。保険料を納付いただき納付相談の機会を持つための措置で、保険料を納付できなくとも短期保険証は交付している。
【質問】全国で子どもの国保の均等割り減免をしている自治体は26に上る。小海町は第3子以上の均等割りを減免している。国保の減免条件に特別条件があり、首長の裁量（多子世帯を特別条件とした）で実現したという。当町でも、子育て世帯支援のため均等割り減免の実施を求める。
《住民課長》均等割り減免の実施を国に求める。 《町長》小海町の例は研究したい。

【日本共産党池田支部 2020年度予算要望書への町回答 ～前向きに検討するとした項目～】
日本共産党池田支部は昨年11月29日に39項目からなる2020年度池田町予算要望書を町に提出しました。本年1月20日に町から回答がありました。そのうち町が前向きに検討するとした主な項目は次のとおりです（防災などで多数ありますが省略させていただきます）。

- ①まちなか・まち南部平地に遊具公園を整備してください。
《回答》子育て中の保護者のニーズ調査をし、場所の設定については検討していきます。多くの方に“かえで広場”をご利用いただくため、将来的に四阿（あずまや）や複合型遊具が必要と考え、検討していきます。
- ②ハーブセンターのハーブガーデン・ガラス温室を充実し、花とハーブの専門家の雇用など誘客できる施設になるよう体制を構築してください。 《回答》施設の充実を図ります。専門家雇用にも努めます。

一般質問



うすい孝彦

【質問2】池田町での防災士が15人となったので、町防災力強化に向け池田町防災士協会を立ち上げ・育成に町の支援を。
《総務課長》来年度、設立に向け相談していく。

【質問3】高瀬川洪水対策として、高瀬川での浚渫工事の実施を県に要望を。また、掘削・浚渫した土砂は川の外に出すよう県に要望を。
《建設水道課長》両項目とも県へ要望していく。

【質問4】高瀬川の霞堤から出水する高瀬橋の水位を知らせていただくよう県に要望を。
《総務課長》県へ要望していく。内鎌霞堤にある「あづみの広場」への過去の出水状況（写真4）から内鎌以南地区の洪水避難準備勧告発令の目安は高瀬橋の水位が1.5mを超えたらと考えている。

2. 高齢者の配食サービスに財政支援を。

【質問】県下のほとんどの自治体が高齢者の低栄養防止・見守りとして配食サービス（弁当を届けながら見守る）に財政支援を実施している。町も検討を。
《町長》配食サービスへの財政支援は十分検討に値すると考える。今後も検討していく。

3. 町の短歌・俳句の歴史を活かし、町が「短歌・俳句の里」となるよう、具体的な取り組みを。

香川景樹の高弟として活躍した町出身の内山真弓、アララギ派の歌人で当町で活躍した島木赤彦・岡 麓、町出身で人間俳句を提唱した浅原六朗、父親が町出身で自由律俳人の荻原井泉水など、池田町は豊かな短歌・俳句の歴史を有している。これらの文化的資源を活かし、町が「短歌・俳句の里」になるよう、具体的な取り組みを。

【質問1】子ども・大人を含めた「短歌・俳句・詩」のコンクール及び表彰イベントの開催を（写真5参考）。
《生涯学習課長》具体的に検討していきたい。

【質問2】塩尻市の「短歌のまちづくり」を視察研修するバスツアーの実施を。
《生涯学習課長》強い要望があれば検討する。

③サイクリングを活かした観光施策を構築し、実施してください。
《回答》来年度は、町内の関連事業者に協力していただき、道の駅を拠点としたレンタサイクル事業を展開する予定です。また、観光推進本部では県の元気づくり支援金を活用して、町内でコンビニや飲食店など立寄りポイントと想定される施設にサイクルスタンドを設置し、町外から県道などを往来するサイクリング愛好家の方などが容易に立ち寄れる体制整備を行う予定です。

④交流センターは町民に使い勝手の良い施設となるよう町民の声を聴く懇談会を開催し、運営に活かすようにしてください。 《回答》今年度中に開催できるよう計画します（新型コロナウイルスのため延期）。



写真3 補助金を利用して改修されたブロック塀



写真4 2017年6月30日～7月4日の大雨により水没した内鎌霞堤「あづみの広場」



写真5 塩尻市での「全国短歌フォーラムin塩尻」表彰式